

2025年（令和七年）

4月4日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

## ■ 概況

当週（3月27日～4月2日）の国際石油市場は、トランプ政権の関税政策の動向を中心に小刻みにかつ堅調に展開した。注目されるのは、ロシアに停戦圧力の一環として、ロシア産原油購入国への二次関税賦課など、中国を意識した動きが見られるようになったこと、引き続き、イラン核合意交渉開始への圧力、ベネズエラ移民交渉への圧力は続いている。

NYのWTI原油先物市場は、27日小幅続伸の69.92ドルで始まったが、その後は日替わりで、28日には反落、週明け31日は反発、1日は反落、2日は反発の71.71ドルで終わった。

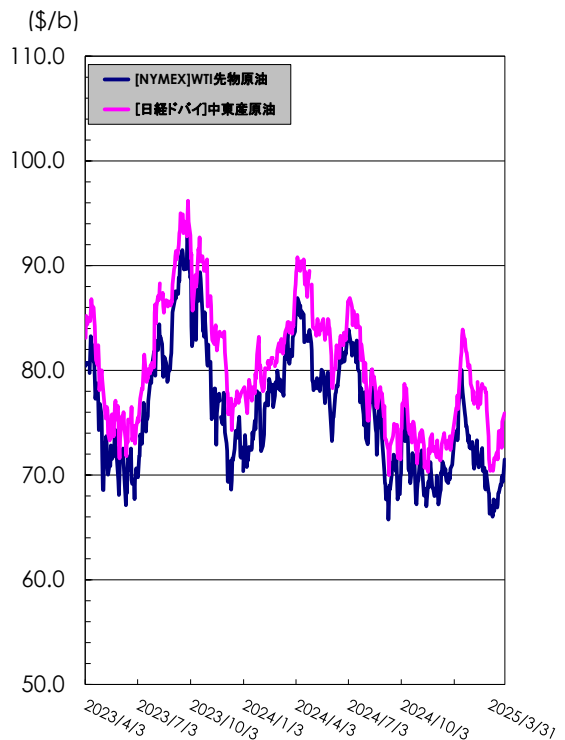
また、中東産パイ原油/東京市場（5月渡し）も、前週（3月20日～26日）は72.60～74.30ドルの範囲で推移したが、当週は、3月27日75.10ドル、28日75.30ドル、31日75.90ドル、4月1日76.30ドル、2日76.10ドルだった。

対ドル為替レート（TTM）は前週（3月20日～26日）149.06～150.95円の範囲で推移したが、当週は、3月27日150.58円、28日151.11円、31日149.52円、4月1日149.82円、2日149.84円だった。

財務省が3月28日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、3月上旬の原油輸入平均CIF価格75.759円で前旬比1.775円安、ドル建て79.71ドルで前旬比0.72ドル安、為替レートは1ドル/151.10円。

そのような中で、3月31日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.4円高、軽油は同0.3円高、灯油は同3円高（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は184.9円となった。4月3日～9日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は、5.8円（補助金がない場合の次週予想価格190.8円で、185円を超える補助率100%支給部分）と、実額ベースでは前週比2.0円の増額となった。

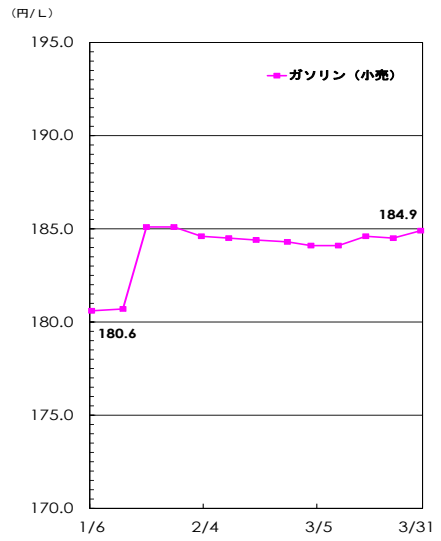
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/23 ~ 3/29	2,701 ▼ -16	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	78.0 ▼ -0.5	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	3/29	11,335 ▲ 636	▲ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	3/31	75.90 ▲ 2.20	▼ -11.7
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	3/31	71.48 ▲ 2.37	▼ -12.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月上旬	79.71 ▼ -0.72	▼ -3.37
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	75,759 ▼ -1,775	▼ -2,332
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	151.10 ▲ 2.14	▼ -1.66
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/31	150.52 ▲ 0.28	▲ 1.91



(単位：千kl、円/%)

		今週	前週比	前年比
需給	在庫	3/29	1,559 ▲ 102	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 3/25 ~ 3/31	88.0 ➡ 0.0	▲ 7.0
価格	(TOCOM/中部)	3/31	88.0 ➡ 0.0	▲ 7.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/31	184.9 ▲ 0.4	▲ 10.3

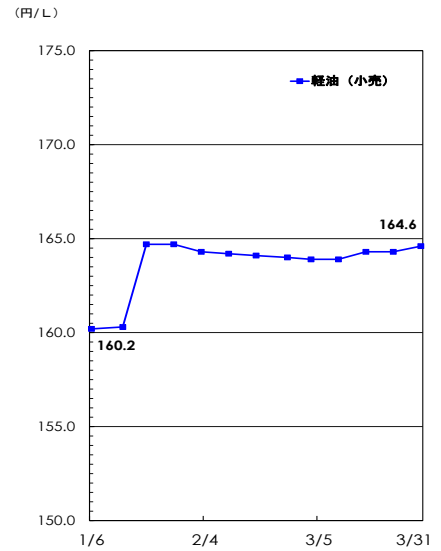
※先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

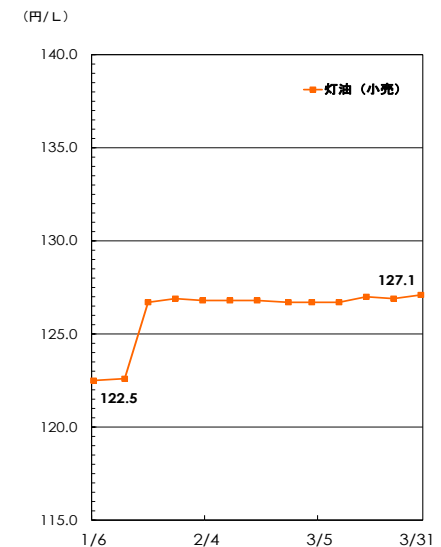
		今週	前週比	前年比
需給	在庫	3/29	1,250 ▲ 8	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 3/25 ~ 3/31	93.2 ▲ 0.9	▲ 10.2
価格	(TOCOM/中部)	3/31	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/31	164.6 ▲ 0.3	▲ 10.4

※先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

		今週	前週比	前年比
需給	在庫	3/29	1,404 ▲ 79	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 3/25 ~ 3/31	88.0 ➡ 0.0	▲ 5.4
価格	(TOCOM/中部)	3/31	90.5 ▲ 1.5	▲ 7.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/31	127.1 ▲ 0.2	▲ 10.4



## ■ 関連情報

### 1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（3月13日～19日）のNYMEX・WTI先物市場は66.55～67.58ドルの範囲で推移した。

当週、3月27日は、カナダへの追加関税問題、ベネズエラへの経済制裁強化問題等、石油の供給削減懸念、さらに米国の堅調な経済指標の発表があり、小幅続伸した。米国の関税政策は、世界の経済減速懸念もあるが、石油の供給懸念もあり、下げ要因・上げ要因双方があるが、この日は上げ要因となった。5月物終値は前日比0.27ドル高の69.92ドル。

週末28日は、4月2日の米国関税政策詳細発表を前に、世界経済・石油需要の停滞懸念が高まり、また、株式市場の低下もあり、3日ぶりに反落した。5月物終値は、前日比0.56ドル安の69.36ドル。

週明け31日は、トランプ大統領が、ロシアのプーチン大統領に対しウクライナとの停戦協議を遅延させているとして、イランに対して核合意に取り組んでないとして、いら立ちを表明、場合によっては、両国に高額関税を賦課すると発言したことから、経済制裁強化・石油供給の不安が拡大し、大幅に反発、70ドルを回復した。5月物終値は前日比2.12ドル高の71.48ドル。

4月1日は、2日にトランプ政権の関税政策の詳細発表を控えて、世界経済の停滞感、燃料消費の減少が意識され、反落した。5月物終値は同0.28ドル安の71.20ドル。

2日は、トランプ政権の発表が待たれる中、株式市場の好調やドル安に伴う原油先物の割安感もあって、反発した。原油在庫は前週比大幅に積み増されたが、カナダへの追加関税賦課に備えた動きととらえられた。5月物終値は同0.51ドル高の71.71ドル。

### 2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）による4月2日発表の28日の米国在庫週報によると、原油在庫は前週比620万バレル増と、市場予想（210万バレル減）に反する大規模な積み増し。米高関税政策の影響を見込んでカナダ産の輸入が急増した模様。

EIAによると、3月31日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比4.7セント高の1ガロン3.162ドル（125.6円/ℓ）と2週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比2.5セント高の1ガロン3.592ドル（142.7円/ℓ）と2週連続の値上がり。

ベーカー・ヒューズ社によると、3月28日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比2基減の484基となった。

### 3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年03月23日～03月29日に休止したトッパー能力は42.1万バレル/日で、前週に対して6.7万バレル/日減少した（全処理能力は311万バレル/日）。

原油処理量は270.1万klと、前週に比べ1.6万kl減少。前年に対しては3.5万klの減少。トッパー稼働率は78.0%と前週に対して0.5ポイントの減少、前年に対しては1.9ポイントの増加となった。

## 4 国内/製品在庫量

3月29日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、灯油、軽油、A重油で積み増しとなり、C重油は取り崩しとなった。

ガソリンは155.9万kl、前週差10.2万kl増。前年に対しては0.5万kl少ない。

灯油は140.4万kl、前週差7.9万kl増。前年に対しては29.1万kl多い。

軽油は125万kl、前週差0.8万kl増。前年に対しては9.1万kl少ない。

A重油は72.1万kl、前週差0.9万kl増。前年に対しては12.1万kl多い。

C重油は163.2万kl、前週差0.3万kl減。前年に対しては9.9万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (3/29)	前週 (3/22)	前週比
ガソリン	1,559	1,457	▲ 102 (7%)
ジェット燃料	648	617	▲ 31 (5%)
灯油	1,404	1,325	▲ 79 (6%)
軽油	1,250	1,242	▲ 8 (1%)
A重油	721	712	▲ 9 (1%)
C重油	1,632	1,635	▼ -3 (-0%)
合計	7,214	6,988	▲ 226 (3.2%)

## 5 国内/元売会社製品卸価格

3月25日～31日のドル建て中東原油価格は前週比値上がりし、為替レートも円安で、さらに、3月積み中東原油フォーミュラ原油調整金の割り増しがあったため、元売会社の卸値は大きく値上げされたものと見られる。補助金は2.0円増額に止まり、4/3からの実質卸価格は値上がりとなる模様。

## 6 国内/製品小売価格

3月31日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円高の184.9円、軽油は同0.3円高の164.6円、灯油は18%ベースで同3円高の2,288円(1%ベースでも0.2円高の127.1円)。ガソリンは2週ぶりの値上がり、軽油は2週ぶりの値上がり、灯油は2週ぶりの値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが30都道府県、横ばいが6県、値下がり11府県だった。全国最安値は岩手県の178.8円、その次は愛知県の179.1円であった。他方、最高値は高知県の193.7円。最も値上がりしたのは千葉県(同1.3円高)、最も値下がりしたのは京都府(同0.8円安)だった。

次回調査時(4/7)のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (3/31)	前週 (3/24)	前週比	直近高値
レギュラー	184.9	184.5	▲ 0.4	23/9/4 186.5
灯油	127.1	126.9	▲ 0.2	08/8/11 132.1
軽油	164.6	164.3	▲ 0.3	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。  
次回 (2025第2号) の公表は、4/11 (金) 14:00 です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

#### ②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

#### ④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。